

本日、1学期の終業式を迎えることができました。皆さん一人一人は、悩んだり苦しんだり、いろいろな思いを持ちながら学校生活を送っていることと思いますが、何はともあれ、1学期を終えられることを、生徒の皆さん、保護者や地域の方々、そして教職員の皆さんに心から感謝します。本当にありがとうございます。

1学期の南高を振り返ってみますと、

県総体で、団体種目で優勝3つ、個人種目で準優勝4つなど、多くの部が上位進出を果たしました。四国大会においても、登山女子が優勝、登山男子と弓道男子団体が準優勝するなど素晴らしい活躍を見せてくれました。

県総体の際、弓道部の外崎さんが、愛媛新聞の取材に「応援されるチームを目指して、競技以外に礼儀正しさなども心がけてきたことが、結果につながったと思う。全国でも『自分に勝つ』との気持ちを持って平常心で臨みたい」と答えていたことが印象深いです。

文化部では、放送部が県高校放送コンテストの各部門で最優秀、優秀を受賞し、全国高校放送コンテストに出場するとともに、全国高文祭にも出場します。囲碁・将棋部も高校総合文化祭県大会で優勝し、全国高文祭に出場します。全国高文祭には、美術部、文芸部、自然科学部、弦楽部、コーラス部も出場します。

それぞれとても素晴らしいことです。皆さんの活躍を大変うれしく、そして誇らしく思います。もちろん、これらの表彰を受けたなどの華々しい活躍以外の、それぞれの場所で一生懸命取り組んでいるみなさんの頑張りについても、大変頼もしく思っています。

先ほど紹介した、弓道部の外崎さんのコメントを読んで、勝ち負けとは異なる大切なことについて思いを馳せ、昨年5月に「日刊スポーツ」のニュースサイトに掲載された記事を思い出しました。昨年の春の高校野球四国大会の観戦のため、雨の影響で肌寒かった4月下旬に松山を訪れたカメラマンの方の経験に基づく記事です。

松山駅に向かうため、坊っちゃんスタジアムに隣接する市坪駅に入ると、ホームにはジャージーを着た球児が20人弱と、2～3人ほどの乗客が電車を待っていた。そこから次の電車来るまでの10分間ほど、ホームはどんどん人が増えてきた。

2両編成の電車がホームに入ってきた。松山駅行きの乗り口は、最後部の1カ所のみだ。

体も冷え、電車を待ちわびた人々が一斉に乗り込もうとドア付近に集まった、その時だった。

そこにいた、恐らく1番最初にホームで待っていたであろう20人弱の選手達が、ホームの端に寄り、乗り口を広く開けた。

他の乗客達は、足早に乗り込んでいく。

土地勘もなく、その光景をボーッと見ていた私は思った。

「ああ、この子達はこの電車ではなくて、他の行き先の電車を待っているんだな」

彼らの横を通り過ぎ、電車に乗り込んだ。

そうして空いている席に座り、電車の出発を待ちながら無意識に乗り口に目をやった。

すると、先ほどホームの端に寄った選手達が、1番最後に乗り込んできた。そして誰ひとり座ることなく、何事もなかったように立ったまま小声で談笑している。

彼らは他の乗客に先を譲ったのだ。（中略）

事実をのみ込むと、私は猛烈に恥じた。彼らの好意を当たり前のように解釈し、お礼も言わずにイスに座っている。その事が耐えられなかった。

電車を降り、悔恨を抱えながら、選手に声をかけた。最初に駅に着いていながら、なぜ最後に乗り込んだのか。

選手達は穏やかな口調で答えた。

「僕たちは体も大きいですし、人数もたくさんいるので、先に乗り込んでイスに座るのは他の乗客の方々に迷惑がかかってしまう。体力があるのに座るのもアレですし(笑い)。なので、移動の際は周りの方に迷惑が

かからないように意識しています」。

これが高校球児なのだと、心底彼らを誇りに思った。

もちろん、先に乗り込むこともイスに座ることも、決して悪いことではない。そうする高校球児だって、当然いるはずだ。

ただ、誰からもお礼を言われなくても、当たり前のように順番を譲り、他人に迷惑をかけないよう振る舞った彼らは、とてもかっこよかった。

(後略)

“「また愛媛に来よう」他の乗客に先を譲った高校球児の振る舞いに心底彼らを誇りに思った” 日刊スポーツ.2024-05-09,ニッカンスポーツ・コム,
<https://www.nikkansports.com/baseball/highschool/news/202405090000581.html> (参照 2025-07-11)

紹介は以上です。勝ち負け以上に大切なことをこのチームは身につけているのだなと大変感動したことを思い出しました。彼らが身につけたこのような姿勢は、彼らのその後の人生で、彼らを大いに助けることになるはずだと強く感じました。

この話は他校の話でしたが、本校にも、6月末に、「いよてつ高島屋」で転倒された方を、本校生がさりげなく、丁寧に介助したということで、お礼の連絡もいただきました。誰が見ていようといまいと、善い行いが自然にできる人は大変素晴らしい。私自身も、そうありたいと強く思いながら、毎日吾が身を反省しています。

さて、皆さん自身の1学期は、どうだったでしょうか。「十分でなかったな。」と思う人は、今日から取り組みましょう。未来を変えるには今日を変えるしかありません。未来が変われば、過去に起こった出来事の意味も変わります。少しずつでもいいんです。未来のために、今日から、行動あるのみです。2学期の始業式に、充実感に満ちあふれた元気な笑顔の皆さんに再会できることを楽しみにしています。

少々遅れても問題はない。スタートするだけだ。必ず走れる。絶対に走りきれぬ。